

硬便の患者に対する 酸化マグネシウム少量投与の有効性

健心会 岩本クリニック ○酒井慎弓 上野真美 藤枝優子
青木りえ子 黒澤知加子 佐藤佐江子
飯田美智子 岩本 均

はじめに

透析患者は硬便により便秘になる事が多い。硬便である場合、便を柔らかくする機能性便秘薬が適しているが、実際には刺激性便秘薬が主に使用されている。しかし、長期服用により耐性・習慣性を有し、効果の出現時間が不安定なため、定期的な排便習慣を身につけるのは困難である。機能性便秘薬である酸化マグネシウム製剤は、腸に刺激が少なく腹痛や下痢を起こしにくい。また安価であることから、第一選択薬として処方されることが多い。しかし、透析患者には高マグネシウム血症を起こす危険性があるため、禁忌薬として扱われていた。近年の報告により、マグネシウムはリンの有害性を軽減するミネラルと示唆され、透析患者において血清Mg濃度は、健常者の基準値より少し高め(2.7~3.0mg/dℓ)の方が骨折・心血管死亡リスクの上昇を抑えるなどの利益をもたらすことが示されている。

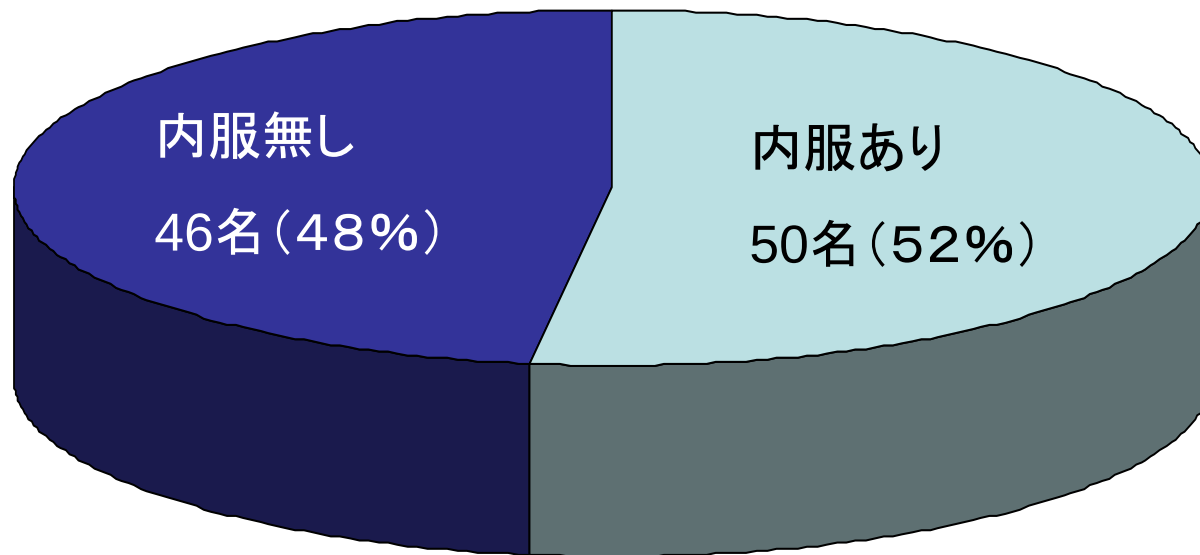
目的

硬便の患者に酸化マグネシウムを少量投与
(500mg/日以下)して、便の形状と血清Mg濃度
の変化を調べる。

対象及び方法

- ①当院維持透析患者96名に、便秘薬の内服状況と、ブリストルスケールを用いて便の形状を調査する。
- ②ブリストルスケールにて硬便だった患者にマグミットを毎日1ヶ月以上投与し、便の形状と血清Mg濃度の変化を確認する。

便秘薬の内服状況



N=96

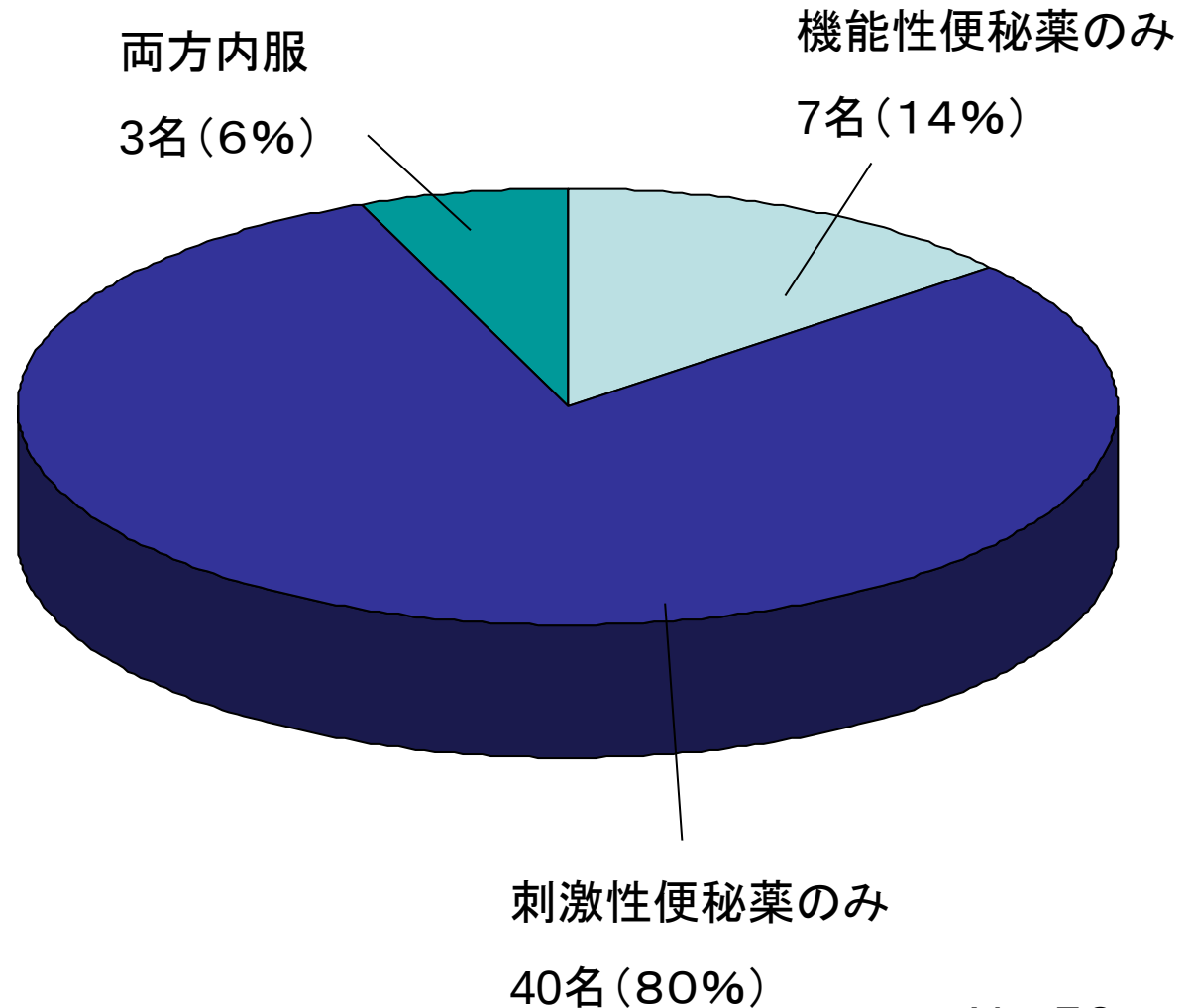
便秘薬の種類

* 機能性便秘薬 (便に働きかける)

ラクツロース
Dソルビトール
アミティーザ

* 刺激性便秘薬 (腸に働きかける)

プルセニド
アローゼン
ラキソベロン



N=50

ブリストルスケールの分類

N = 96

	タイプ	形状	人数	便秘薬の内服あり	便秘薬の内服なし
硬便	① 硬くコロコロしている便		14名 (14.6%)	11名	3名
	② 短くコロコロした便がくっついた便				
正常便	③ 表面がひび割れている便		80名 (83.3%)	39名	41名
	④ なめらかなバナナ状の便				
	⑤ 柔らかく半固形状の便				
軟便	⑥ ドロドロした粥状の便		2名 (2.1%)	0名	2名
	⑦ 水のような便				

マグミット投与後の便の形状

途中離脱 ※

2名 (14.3%)

増量後約1ヶ月で正常便

3名 (21.4%)

約10日で正常便

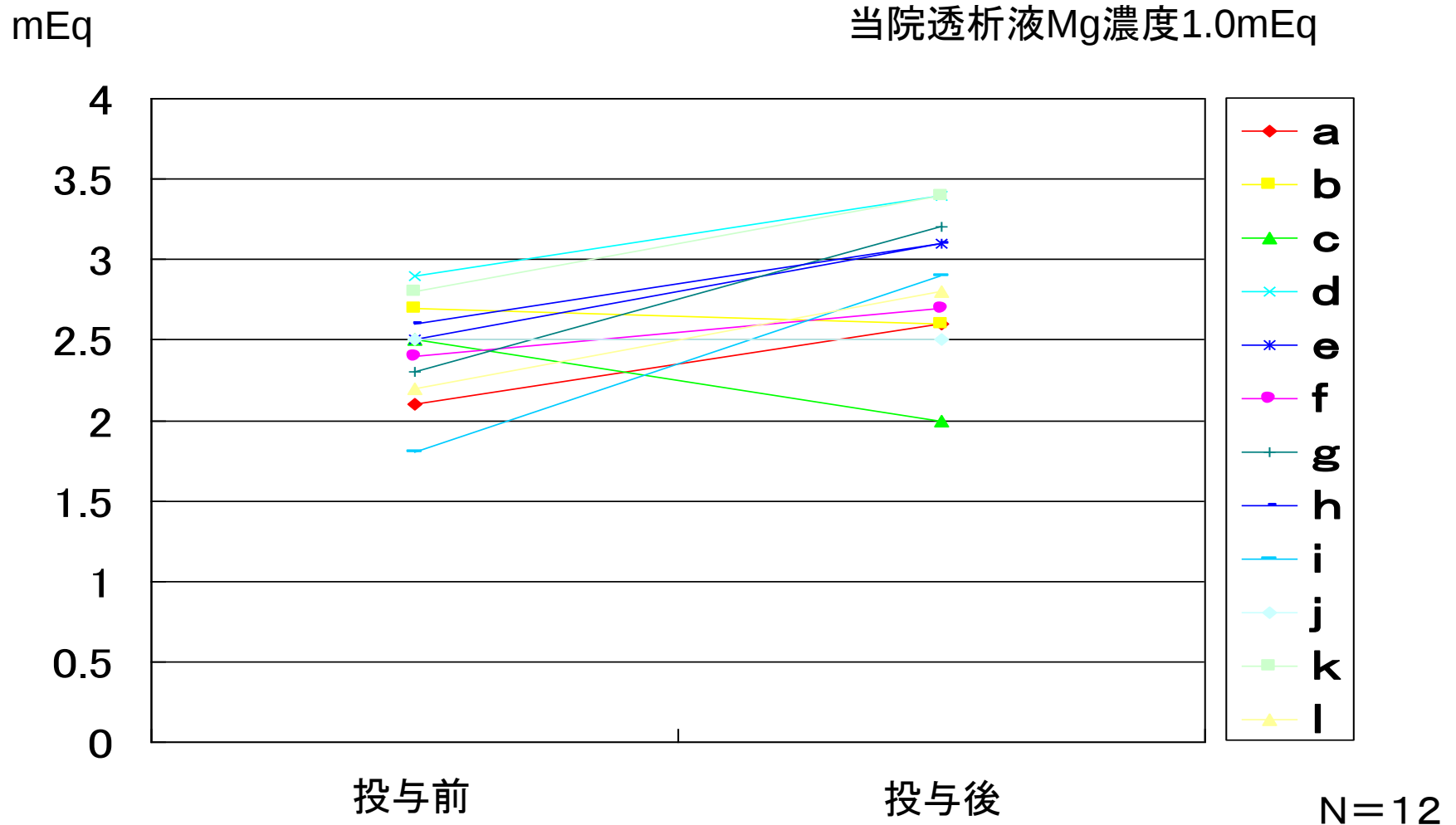
9名 (64.3%)

N=14

※途中離脱の理由 ①毎日便秘薬を内服する事への懸念
②スッキリした感じが得られない

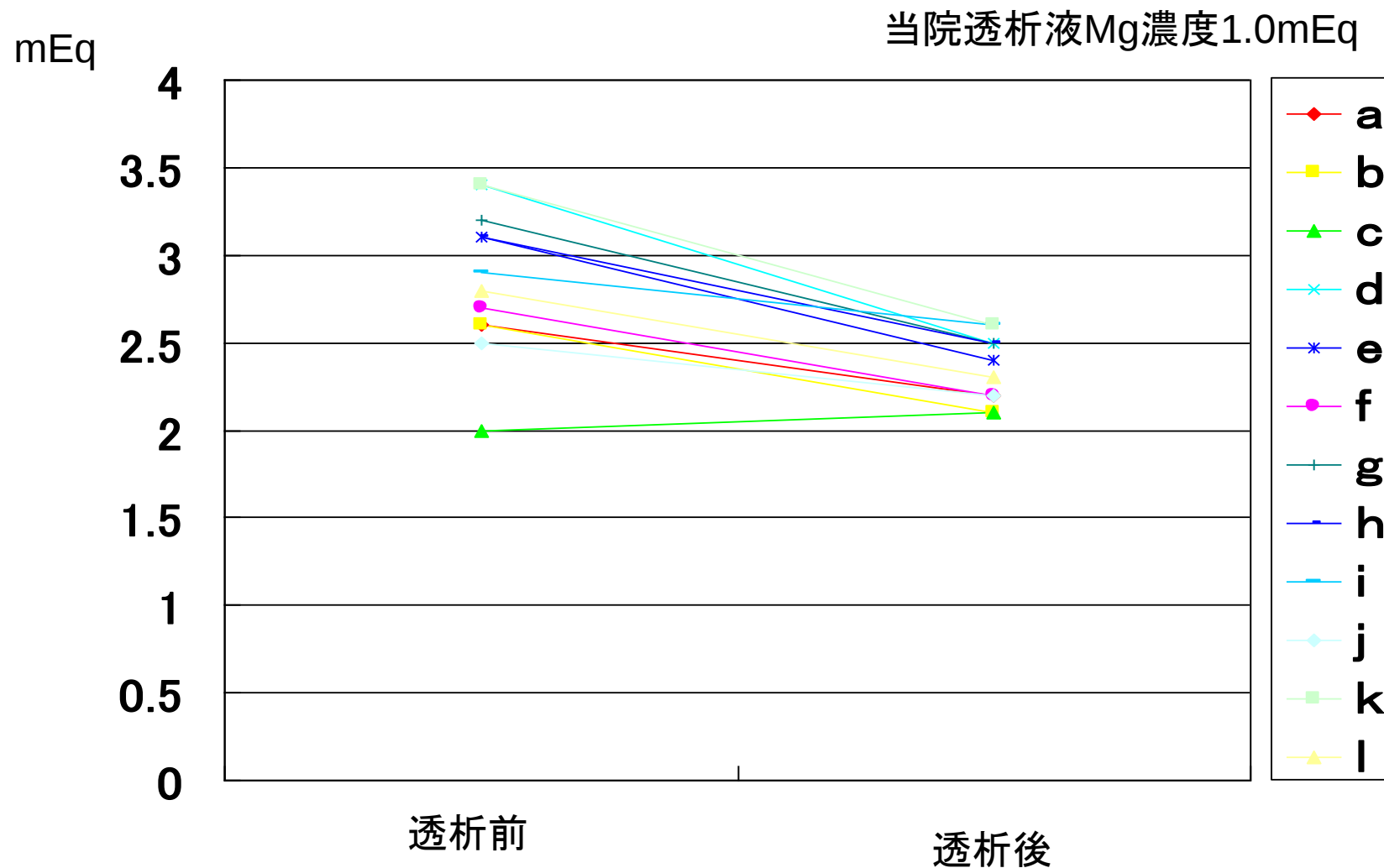
マグミット投与による血清Mg濃度の変化

(1) 投与前後の比較



マグミット投与による血清Mg濃度の変化

(2) 投与後の透析前後の比較



まとめ

- ①当院維持透析患者の排便状況を把握し、硬便の患者にマグミットを投与して便の形状と血清Mg濃度の変化を調べた。
- ②50名(52%)の患者が便秘薬を内服しており、機能的便秘薬は7名(14%)、刺激性便秘薬は40名(80%)だった。
- ③ブリストルスケールで硬便だった患者は14名(14.6%)だった。
- ④硬便の14名の患者にマグミットを投与し、9名(64.3%)が約10日後に、3名(21.4%)が増量後約1ヶ月で正常便になった。2名(14.3%)は途中離脱した。
- ⑤マグミット内服した12名中5名が血清Mg濃度3.0mg/dl以上(3.0~3.6mg/dl)に上昇したが、透析後は全員3.0mg/dl以下になった。

考察

機能性便秘薬であるマグミットの少量投与は、硬便から正常便への形状変化に効果があり、血清Mg濃度の大きな上昇もみられなかった。

透析患者の血清Mg濃度は、健常者よりやや高値の方が良いと言われていること、マグミットは非常に安価であることなどにより、硬便の患者に有効と思われる。

茨城人工透析談話会 C O I 開示

筆頭発表者名： 酒井 慎弓

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係
にある企業などはありません。